

平成30年度 福島区中学生被災地訪問事業 実施報告

▶事業概要

2

7月24日から2泊3日で区内中学生9名が宮城県の様々な施設等を訪問した。

「震災に遭遇したら、自分には何ができるのか。」という問題意識を持ち、今後のまちづくり等に生かしてもらう。

11月17日（土）には、中学生による報告会を実施予定。

行程 1 日目

7時15分 出発式(福島区役所)
10時35分 仙台空港到着
13時00分 仙台市荒浜地区見学
(震災遺構荒浜小学校等)
15時15分 津波避難タワー等見学
(仙台市役所危機管理室)
19時00分 被災者講話
(カキ漁師による講話)

行程 2 日目

9時00分 松島震災学習クルーズ
(海の語り部による講話)
11時10分 石巻市復興状況 &
仮設住宅見学
(大阪市派遣職員)
14時00分 南三陸さんさん商店街
(語り部講話 & 各店舗への
インタビュー)
16時00分 各民泊先へ移動
(南三陸町内で民泊体験)

行程 3 日目

9時30分 民泊先から集合
11時30分 東北大学到着
12時30分 模擬講義・実習
(災害科学国際研究所)
14時30分 大学院生との談話
(震災当時の中学・高校生
から体験談を聞く)
17時00分 仙台空港出発
19時45分 帰阪式(阪神野田駅)

宮城県概略図

3



震央

(牡鹿半島から東南東約130km)

出発式



福島区役所正面玄関で生徒代表が挨拶をしました。

仙台市立荒浜小学校①



「震災遺構」として震災の惨状を後世に伝えるために保存されている小学校です。

仙台市立荒浜小学校②



校舎2階まで津波が襲来したためフェンスが歪んでいます。津波の衝撃が伺われます。

仙台市立荒浜小学校③



校舎1階の様子です。写真左側の教室の天井が剥がれ落ちています。

荒浜祈りの塔



震災後、慰霊のために建造されました。観音像は津波と同じ9mの高さです。黙祷と献花を行いました。

津波避難タワー(仙台市)①



震災後に一時避難所として仙台市内11カ所に設置されました。

5

津波避難タワー(仙台市)②



津波避難タワー屋上です。奥に照明充電用のソーラーパネルが見えます。

力キ漁師による講話（東松島市）



被災で何もかも失ったことを契機に新たな仕事に挑戦しているという、力強く前向きな話を伺いました。

松島湾震災学習クルーズ①



クルーズ船から松島湾を見学しました。

松島湾震災学習クルーズ②



語り部の方から、震災当時の惨状、今も続く行方不明者の捜索などのお話を伺いました。

石巻市の復興状況見学



石巻市に派遣されている大阪市職員に現地の復興状況を聞きました。

仮設住宅(石巻市)



石巻市郊外で今は使われていない仮設住宅を見学しました。

南三陸さんさん商店街



2012年に仮設商店街としてオープンし、2017年に本設となったばかりの商店街です。

商店街各店舗インタビュー①



下福島中学校が訪問インタビューした「食楽しお彩」さんです。

7

商店街各店舗インタビュー②



野田中学校が訪問インタビューした「創菜旬魚はしもと」さんです。

商店街各店舗インタビュー③



八阪中学校が訪問インタビューした「オーイング菓子工房 Ryo」さんです。

東北大学災害科学国際研究所①



「古文書に学ぶ防災」というテーマで蝦名先生から模擬講義を受けました。

帰阪式



無事福島区に帰り、阪神電鉄野田駅で福島区長に挨拶をしました。

東北大学災害科学国際研究所②



水谷先生と震災当時に中学生・高校生だった大学院生から体験談を伺いました。

全員で集合写真



最後に参加生徒勢揃いで記念撮影をしました。

参加した中学生の感想

9

事業終了後のアンケートにおいて、参加した中学生全員が防災意識向上や災害について考える機会となったと回答。

アンケート自由記入欄抜粋

- ▶ 今回の被災地訪問で東日本大震災でのその時の色々な人々の話を聞くことで、亡くなられた方、生き残られた人それぞれに大切な家族や暮らしがあったのだと改めて思いました。
- ▶ 私は震災時、仙台市に住んでいて、荒浜地区や南三陸町、石巻を訪れることも何度かありましたが、震災直後よりも復興が進んだなと感じる一方で、7年という長い時間なのに遅いなとも感じました。
- ▶ 被災をされた方々が予想以上に明るく前向きに生きていらっしゃって驚きましたが、そのポジティブな精神に感動しました。
- ▶ 2泊3日でたくさんの事を学ばせていただき、なかには悲しく涙が出るような話もありましたが、これらを大阪の人に伝えられたらなぁと思います。